

研究課題名：NST における栄養状態と口腔機能連関の解明

研究者名：鈴木啓之¹，中山玲奈²，戸原 玄¹，古屋純一²，水口俊介¹

所属：1. 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野

2. 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 地域・福祉口腔機能管理学分野

【緒言】

入院患者の栄養管理には多職種連携医療である Nutrition Support Team (NST)による介入が効果的であるとされており，歯科医療従事者の NST への積極的な参加が求められている．しかしながら NST の対象となるような低栄養状態にある入院患者の口腔環境・機能の実態の詳細や，急性期における栄養サポートとの関連についてはいまだ明らかではない．そこで我々は，急性期病院入院患者のうち，低栄養によって NST の対象となった患者の口腔環境・機能を明らかにすること，また，そのような患者の口腔環境・機能と栄養摂取方法を含めた栄養状態との関連の解明を目的として，横断調査を行った．なお，本研究は東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の承認を受けて行った（承認番号 D2016-077）．

【方法】

本研究の対象者は，2016年4月から2019年7月までの間に，栄養管理を目的として東京医科歯科大学医学部附属病院の NST に依頼となった20歳以上の入院患者255名（男性154名，女性101名，平均年齢69.7±14.4歳）とした．本研究対象者の患者基本情報および栄養状態の指標として，年齢，性別，NST 初診時の身長，体重，BMI，NST 依頼元診療科，全身疾患，入院から NST 介入までの日数，身体機能，意識レベル，NST 初診時の血清アルブミン値，血清 CRP 値の評価を行うとともに，口腔環境・口腔機能に関するアウトカムとして，現在歯数，機能歯数，咬合支持状況，義歯使用状況，Dysphagia Severity Scale (DSS)，Oral Health Assessment Tool (OHAT)，歯科による専門的口腔管理の必要性の有無の評価を行った．さらに栄養摂取方法は，Functional Oral Intake Scale を参考に，8段階で評価を行った．

【結果】

本研究対象者においては，舌，口腔乾燥，口腔清掃などの口腔環境が悪化しており，咀嚼に関連する咬合支持状況や，嚥下機能も低下していることが明らかとなり，なんからの歯科介入が必要と考えられるものが多く認められた．また，約半数が経口摂取困難な状態で，静脈栄養や経管栄養のみによる栄養摂取を行っていた．さらに，多変量解析では，OHAT 合計スコアは，年齢，BMI，栄養摂取方法と有意な関連が認められた．

【考察】

本研究の結果から，静脈栄養よりも経管栄養で腸を使うこと，経管栄養だけよりも少しでも経口摂取を確立することが，口腔環境の改善に通ずることも明らかとなり，急性期病院における NST に歯科医療従事者が積極的に参画し，専門的な口腔ケアや歯科治療などの口腔管理と摂食嚥下リハビリテーションを多職種協働で行うことの重要性が示唆された．